



川と橋を訪ねて 1 万キロ

(特非) シビルNPO 連携プラットフォーム サポーター

NPO 法人 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 理事 山中 鷹志

65 才で本州四国連絡橋公団と(財)海洋架橋・橋梁調査会の勤務を終え、健康保持と社会勉強のために始めた徒歩による河川と橋の現況調査も 7 年目を迎えた。川を河口部から徒歩で上流に向かい、川に架かる全ての橋の目視による現況調査を行い、橋種、管理者別による状況の差を見て来た。住んでいる岡山からの日帰りを基本とし、1 日分を見たら一旦帰宅し、後日先日の折返し点から上流に向かう尺取虫のような行動で、往復は極力公共交通を利用することにした。これで川と道路、橋及び地域の状況が良く分かるようになってきた。まずは住んでいる岡山県の長さ 5km 以上の全河川を 2 年間かけて踏査した。これで管理者の違いによる橋の状況の違いがはっきりとし、県の全市町村を隈なく歩いた。その後香川、徳島、愛媛、高知の四国 4 県と広島、兵庫の瀬戸内海に流れる川で 10km 以上の長さの川に足を向けた。四国は 99%の川を終え、あとは徳島・高知県境部の川を残すのみとなった。川沿いを歩くことによって、良く手入れされた田圃と森林、綺麗な川の水が日本人の特性を育ててきたことを強く感じる。

3 年前に国土交通省から道路橋の 5 年毎の定期近接点検の通知があり、全ての橋を 5 年毎に近接点検する必要性に疑問を感じ、1 回目の岡山調査から 5 年経過していたので 2 回目の遡行を行い、その間の状況変化を比較調査した。この時には県の橋梁担当の土木職員も何度か一緒に歩いて頂いた。道路、橋の管理職員はインハウス業務に忙殺され、業務の外注化が進み現場を歩き、見る機会が少なくなっている。点検結果の細かいデータだけで判断することなく現場の状況を良く見て総合的に判断する技術を養うことの大切さを伝えた。



高知 仁淀川 釜井田大橋



徳島 吉野川 大歩危峡

歩きながらの観察で連続する景色を好きな所で写真に撮れることから、写真入りの気ままな遡行記を制作し関係者に送信している。出かける前の道路地図と地形図を見、鉄道とバスの運行状況などを調べての計画作成、帰宅してからのデータ整理、紀行文の作文、写真整理と結構忙しい毎日である。過疎地域のバスの減少からルートを探すのは困難を極める。これまで歩いた距離は約 9,600km、調査した橋の数は約 11,000 橋、415 の川を歩き、岡山県の 93 の川は二度歩いた。